

▼ファロム錠・▼ドライシロップ小児用 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】ファロベネムナトリウム水和物 (FRPM) Ffaropenem Sodium Hydrate 【分類】経口ペネム系抗生物質

【単位】▼150mg・▼200mg/錠, ▼10%DS

【常用量】450～600mg/日 [肺炎, 腎盂腎炎など感染症によって 600～900mg/日]

【用法】1日3回

【透析患者への投与方法】Bioavailabilityが不明であるため正確ではないが, 50%に減量 (5)

【その他の報告】減量して投与 (1)

【保存期CKD患者への投与方法】Bioavailabilityが不明であるため正確ではないが, 高度腎障害患者では50%に減量 (5)

【その他の報告】減量して投与 (1)

【特徴】経口ペネム系抗生物質で各種ペニシリン結合蛋白質 (PBP) への親和性が高く, β -ラクタマーゼにも安定. 下痢の副作用が多い.

【主な副作用・毒性】下痢, 軟便, 腹痛, 発疹, 嘔気, ショック・アナフィラキシー, 急性腎不全, 重篤な大腸炎, SJS, TEN, 間質性肺炎, 肝機能障害, 黄疸, 無顆粒球症, 横紋筋融解症など

【吸収】小腸上部で吸収される (1) 【Ka】1.0/hr (1)

【F】20%以上 (1) 低値であるため, 下痢の副作用が発生しやすいのかも知らない (5)

【tmax】1～1.5hr (1)

【代謝】代謝を受けずに尿中に排泄される他に, 腎および腸管に存在する DHP-1 により M-1, M-2 に代謝された後に尿中に排泄される [代謝物に活性はない] (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 3.8～4.5% [po] (中島光好, 他: 日化療会誌 41: 1293-99, 1993) 4～6% [po, 24hr まで] (1) 尿管上皮細胞において無機リン酸トランスポーター Npt1 によって排泄されるが β ラクタム系抗生物質の併用により有意に輸送が阻害される (Uchino H, et al: Antimicrob Agents Chemother 44: 574-7, 2000)

【CL/F】31L/hr (1)

【t1/2】約 1hr (1) Cr 20～30mL/min : 3hr, Cr 10mL/min : 5～6hr (1) 【ke】0.8/hr (1)

【蛋白結合率】86.4～90.7% (1) 95～96% (Boswell FJ, et al: J Antimicrob Chemother 50: 525-32, 2002)

【Vd】39L/man (1)

【MW】352.34 [水和物]

【透析性】蛋白結合率が高いため透析では除去されにくいと考えられる (5) 透析クリアランス 15.0±8.7mL/min と低い (長谷川豪紀, 他: 臨床薬理 39: S289, 2008) 低アルブミン血症では HD クリアランスの上昇が認められる (長谷川豪紀, 他: 臨床薬理 40: S235, 2009)

【O/W 係数】0.005 [1-オクタノール水系, pH7.0] (1) 【pka】3.5

【相互作用】カルバペネム系薬剤との併用によりバルプロ酸の血中濃度が低下し, てんかんの発作が再発することが報告されている (1)

【更新日】20211220

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。